

平成 15 年度  
愛知県周産期医療協議会調査研究事業報告書

## 超低出生体重児の 地域療育利用に関する実態と問題点

あいち小児保健医療総合センター

山崎嘉久、中澤和美、竹内知陽

田邊祐子、朝日利江、佃 隆治

名古屋第一赤十字病院小児科

鬼頭 修

平成 16 年 9 月

## 【調査の背景】

超低出生体重児は、遠隔期に運動面のみならずコミュニケーション障害など発達の様々な分野での障害が一定頻度で発生しているとの報告がある。また明らかな障害はなくとも、集団健診などの利用が低いなど家族も含めて集団社会の中に溶け込みにくい傾向のあることが先行研究から推測される。各種の障害に対しては、早期の療育を含めた生活面での支援が有効であるが、このグループの子どもと家族がそういった支援を受けるにあたって困難のある事例が経験される。しかし、超低出生体重児などの退院後遠隔期の生活状況や家族の受け止め方などに関する報告は少なく、その実態は明らかではない。

## 【調査の目的】

療育の効果が乏しいまたは療育システムに乗らないといった困難事例への対応を確立するため、まず今回の調査では、退院後の遠隔期において、保育や学校といった集団生活に入る中で、集団との関わりにどの程度の問題があるのか、もし障害がある場合には地域でどのような療育を受けているのか、または必要としているのか、家族の受容の実態、その生活面における実態調査を実施する。

この結果を踏まえ、早期の療育の利用、医療機関と療育機関との一歩踏み込んだ連携方法など今後の具体的な対応方法について考察する。

## 【調査対象】

退院後の状況について実態を把握するためには、療育の提供者、利用者ならびに入院治療に関わった医療機関など多角的な視点からの検討が必要である。このため、本調査では、患者家族、療育を担当する施設（医療機関を含む）、および新生児医療に従事する施設の3者に対して調査を実施した。

1. 愛知県周産期医療協議会の参加施設を退院（ただし2000年、1995年、1990年の退院例）した超低出生体重児のうち、調査に同意が得られた家族。
2. 愛知県内で療育活動を行っている療育施設、医療施設、福祉施設等の職員。
3. 愛知県内で新生児医療に従事する医療機関の職員（新生児病棟等）

## 【調査方法】

### 1. 家族へのアンケート調査

現在の生活の状態、特に集団との関わりの中で困難さはないかどうか、もし何らかの障害を有している場合に療育を受けている（た）か、病院から療育へのつながりに困難はなかったか、療育施設と保育園、幼稚園や学校とのつながりは円滑であったかどうか、家族の受容の問題、ならびに患者が利用した療育施設名とその主な内容についての記名

調査。市町村の親子教室等の利用具合などについての無記名の調査を実施した。

## 2. 療育機関・医療機関調査

低出生体重児を中心とした患者に対してどのような療育活動が行われているか、医療機関との連携状況、現状と問題点、今後あるべき姿や、地域との連携、家族の受容等に於ける問題点などについて記名式のアンケート調査を実施した。

なお依頼先は次の施設を対象とした。

- a. 県内で小児科を標榜する医療機関のリハビリテーション担当部門
- b. 県内の医療機関、療育機関、通園施設等で子どもの療育を担っている施設

## 3. 新生児医療に従事する医療機関調査

新生児医療に従事する医療機関に対する地域の療育機関や療育部門との連携の実態に関する調査を実施した。

### 【調査時期】

平成 15 年 12 月～平成 16 年 2 月。

### 【個人情報保護と匿名性の遵守】

本研究は、厚生労働省医政局長通達「臨床研究に関する倫理指針（平成 15 年 7 月）」に基づき、あいち小児保健医療総合センターの倫理委員会等の審査、承認の下で実施した。

個人情報保護のため、患者へのアンケート調査は匿名とし、患者氏名・住所等の名簿情報は、調査担当者とは独立に管理し、アンケート郵送時のみに使用し、その後破棄した。

### 【結果】

#### 1. 家族へのアンケート調査

周産期医療協議会参加医療施設から寄せられた対象患者・家族 154 人のうち、調査に同意が得られた 53 人（34%）についてアンケート調査を実施した。（資料 1.家族へのアンケート調査結果（1）参照）

- ・新生児病棟等を退院してからの生活について（資料 1.設問 3.参照）

集団健診受診率は 66%であった。受けなかった人の理由としては、多い順に 病院で健診を受けているため必要と思わなかった、 集団に入ること感染を避けたかった、 周りの人と比べられるのがいやだったの理由が挙げられた。

- ・リハビリテーションなど利用状況について（資料 1.設問 4 参照）

病院でのリハビリ、1 歳半事後親子教室または通園を利用した人は、回答者中 51%であった。

『病院でのリハビリテーション』の利用状況について

病院のリハビリテーションを受けたのは、81%であった。そのうち理学療法：68% 作業療法：50% 言語療法：41% 心理療法：18%であり、理学療法を2施設かけもちで利用している人が3人、言語を2施設かけもちで利用している人が1人いた。

それぞれのサービスを受けるきっかけについては、リハビリ（特に理学療法）については主治医からの紹介がきっかけになっていることが多く、その他のリハビリテーションについては健診を通して紹介されることが多い傾向を認めた。

なお、集団健診受診でリハビリテーションなどを利用した人は57.1%、集団健診未受診でリハビリテーションなどを利用した人は41%であった。

『1歳半事後の親子教室』の利用状況について

利用率は、55%であった。利用のきっかけは、健診で保健師よりの紹介が多かった。

『通園施設の利用』の利用状況について

利用率は、32%であった。利用のきっかけは、健診で保健師よりの紹介が多かった。

・子どもの生活上で困っていること（資料1.設問6.参照）

「困りごとあり」との回答が53%を認めた。困りごとの内容で多かったものの順番は、発達について、病気のこと、しつけのこと、行動 友達関係・学力であった。

困りごとと年齢、内容などの問題を整理するために、ライフステージに分けて分析した。その結果、どの年齢帯でも「病気」についてこまっているとの回答は2割強を占めていた。3・4歳の困りごととしては、発達、しつけ、行動が20%程度の回答を認め、8・9歳では発達が31.6%、しつけ、友達、学力、行動は15%程度であった。13・14歳では、発達と学力が20%認めたが、それ以外の項目には困りごとの回答を認めていなかった。（資料2.家族へのアンケート調査（2）クロス集計結果 4 - （2）（3）参照）

・相談機関の有無について（資料1.設問6 - (2)参照）

相談機関があると答えた人は、70%であった。これを困りごとの有無で分析すると、困り事があると回答した人のうち相談機関を有するものは75%、困り事はないと回答した人では、64%であった。困り事がありながら、相談機関を有さない7人は、うち6名が8歳以上と年長児が多く、重大な合併症は有していない例であったが、困りごとの内容は、発達、しつけ、学力など他の例と同様であった。

## 2.療育機関・医療機関調査

県内で小児科を標榜する医療機関のリハビリテーション担当部門および県内の医療機関、療育機関、通園施設等総計330機関に対して、調査票を送付した。その結果、180機関から回答があり、このうち子どもの療育を実施しているとの回答を83機関に認めた。さらにNICUを経て退院した子どもの療育の経験は、このうち56機関が経験ありとの回答を認めた。

なお、83 機関のうち、療育の内容について回答が得られたのは 70 機関で、その内訳は病院 29、通園施設 33、その他 8（センターなど 4、療育事業 3、訪問事業 1）であった。

以下その基本的機能から病院と通園施設に分けて、調査結果の概要を示す。

（資料 3.療育機関・医療機関調査結果参照）

## 1) 病院について

### ・療育の内容について

対象疾患は運動障害が最も多かったが、多くが知的障害、広汎性発達障害なども対象としていた。年齢はほとんどが制限なしであり、制限ありと答えた病院は、入院児のみ対象としている機関であった。通院の頻度としては週に 1～2 日、月に 1～2 日がほとんどであった。

### ・療育活動上の問題

療育活動上の問題としては、スタッフの人数の不足・専門スタッフの不足が多くあげていた。その結果患者の数を調整したり、回数を制限したりしていることから、患者の状態によって通う頻度を決めているというよりは病院の事情により決められている現状がうかがえる。

### ・紹介元機関および他機関との連携

紹介元の連携機関としては病院が多く、その連携方法は紹介状・報告書による方法が多かった。しかしながら、連携元に対してより詳しい情報が欲しい、連携方法を改善してほしいといった要望をもっている病院が多かった。

周辺施設との連絡会・勉強会についてはないと応えたものが多かった。また、これらの病院から他機関への紹介先としては、病院・療育センター・施設がほとんどであり、病院から通園施設への紹介は少なかった。

## 2) 通園施設について

### ・療育の内容について

対象疾患は知的障害が最も多かったが、運動障害や広汎性発達障害、その他も多く、まんべんなく対象としていた。年齢は就学前までで、4～5 歳までという施設と 6 歳までというところに分かれた。通所の頻度としては週に 5 日以上、週に 3～4 日がほとんどであり、就学前に密に関わっていた。

### ・療育活動上の問題

療育活動上の問題としては、親の障害受容と専門スタッフの不足をあげているところが多かった。親の障害受容に対しては、話し合うなど親と保育士がコミュニケーションをとることで対処しており、専門スタッフの不足に対しては、他機関と連携をとったり専門家にアドバイスを受けたり研修会に参加したりして対処していた。

・紹介元機関および他機関との連携

紹介元は保健センターが最も多く、アンケートに答えた施設のほぼ全てが保健センターからの紹介があると回答された。病院からは「たまにある」が多かった。また巡回相談からの紹介も3分の1あった。他施設との連携方法としては家族を通してというのが最も多いが、紹介状・報告書や電話・メールも多かった。連携方法に対しては、現状のままでいい、要望なしと答えている施設が半数であった。周辺施設との連絡会はあると答えた施設がほとんどで、病院に比べ横のつながりがあることが分かった。通園施設から他機関への紹介先としては、病院、保育園・幼稚園、施設・療育センターの順が多かった。

3. 新生児医療に従事する医療機関調査

小児科を標榜する病院などを中心に調査用紙を配布し45病院から回答があった。このうち超低出生体重児を受け入れている13病院(群)と超低出生体重児以外の新生児医療に関わっている15病院(群)に分けて検討した。なおこれ以外に、新生児の入院診療は行っていないとの回答が9病院から、小児科診療を行っていないとの回答が7病院から、新生児の入院診療を行っているがリハビリテーションは行っておらず、他施設への紹介もしていないとの回答が1病院からあった。

・退院後の超低出生体重児のリハビリテーションのフォローについて

(資料4.質問項目3-(4)参照)

退院後のリハビリテーション目的でのフォローアップ通院は、群の病院の60%で、群の21%において、入院していた病院でのフォローが行われていた。その理由として「医療的なケアが必要である」と回答している病院は群、群とも100%に認め、「自宅近辺に医療施設がない」との理由は群のみ43%に、「家族へのサポートが必要」なためとの理由は群57%、群33%に認めた。群の病院では、自宅近辺に医療施設がない、家族へのサポートが必要との理由からも、継続的にフォローしていることが推測される。

また、群の病院の80%、および群の病院の79%はリハビリテーション目的で他施設・機関への紹介を行っていた。その理由として群では「自宅近辺にあるため」が27%、「専門的なフォローが必要」82%、「家族の希望」27%であったが、群では「専門的なフォローが必要」100%のみの回答であった。

・退院後の超低出生体重児の外来診察フォローについて(資料4.設問4-(2)参照)

超低出生体重児を扱っている群の病院すべてが退院後の外来診察フォローを行っていた。外来診察フォローを続ける期間として年齢で区切っていく病院もあれば特にそのような区切りを設けないで対応している病院もあった。

外来診察終了の目安としては85%の割合で「子どもの状態安定」と回答されており、次いで共に23%の割合で「他施設・機関への移行が決定」、「家族の希望」と回答されていた。

- ・超低出生体重児に対して地域の集団健診を勧めているか（資料 4.設問 4 - (5) 参照）  
群の病院のうち集団健診受診を勧めているのは 69%、勧めていないのは 31%であった。集団健診を勧めていない理由としては、いろいろなことを健診時言われ不安になるケースが多い、修正月齢でないこと、健診医が小児神経科または新生児科医ではないこと、家族にとって二度手間ではないこと、暦齢 3 歳以降は定期健診を勧めているなどであった。なお、家族用アンケート結果から集団健診を受けたと回答した家族は 66% であり、未受診者の家族の理由と病院の理由は酷似している。

- ・低出生体重児等の療育を目的とした他施設・他機関への紹介について  
（資料 4. 設問 5 - (10)参照）

これまで紹介したことのある他機関の例示から、紹介先は多くが病院のリハビリテーション部門または療育センターであることが明らかであった。紹介の流れとしては 群、群とも約 80%の割合で病院から直接紹介しており、保健所や保健センターなどの保健機関、児童相談所などを介して紹介しているとの回答は少なかった。

紹介に関わっている職種としては医師が 群では 100%、 群では 85%と高い割合で関わっている。他施設とのパイプの役割を果たしているのは医師であるといえる。

なおこの設問であがっている施設数（23 施設）は、療育機関・医療機関調査で得られた NICU 退院児を扱ったことのある施設数（56 施設）、子どもの療育を行っている施設数（83 施設）に比べてはるかに少なかった。

## 【総括】

### 1.地域における超低出生体重児の療育の連携体制について

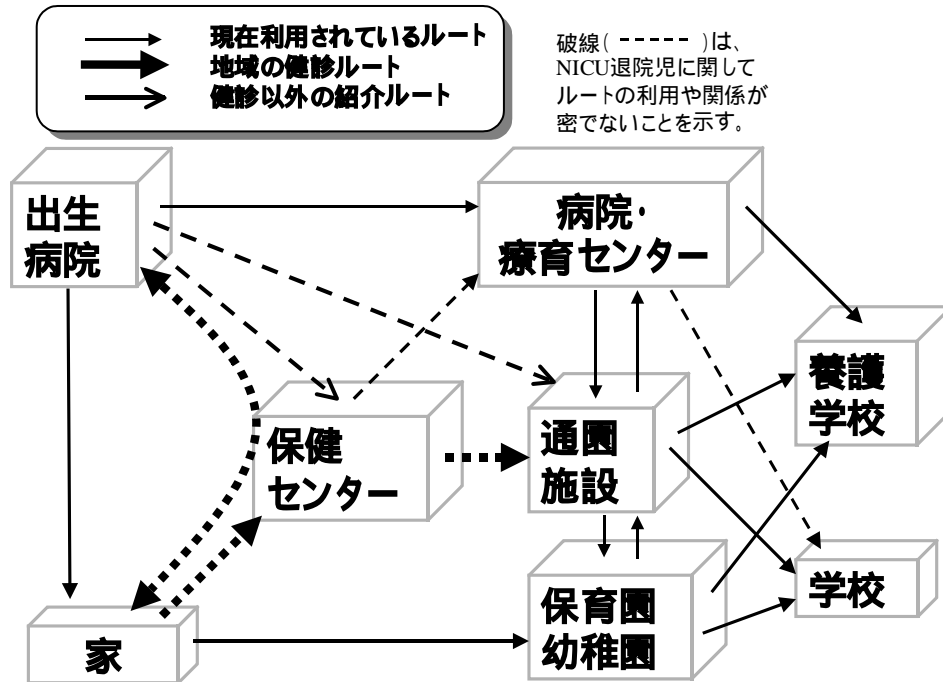
今回の結果から、超低出生体重児が療育を目的として退院後に病院から紹介が行われる場合、その中心となるのは医師であった。その連携先としては、自施設のリハビリテーション部門や療育センター、および専門的なリハビリテーション機能を持つかまたは患者の自宅に近い他病院のリハビリテーション部門への紹介はよく行われているが、通園施設への紹介は少ない傾向を認めた。

通園施設や 1 歳半健診事後の親子教室への紹介は、集団健診などを契機とした保健師からの紹介によることが多かった。今回の調査結果からも、病院のリハビリ部門が対象とする疾患は、知的障害、広汎性発達障害なども多いがなんといっても運動障害が最も多かった。一方、通園施設では知的障害が最も多いが、運動障害や広汎性発達障害その他も多い。すなわち、通園施設では理学療法のみならず作業療法や言語療法などが行われている。ことばやコミュニケーションなどに関する発達の性質上、1 歳を過ぎてからはじめて問題が明らかになることも少なくない。その時点になって保健師やリハビリテーション・スタッフが気づいて通園施設に紹介になるケースの存在なども、病院から通園施設への紹介が少ない原因として考えられる。

病院の医師が紹介先としている施設数は、療育機関・医療機関調査で得られた NICU 退

院児を扱ったことのある施設数、子どもの療育を行っている施設数よりはるかに少なかった。家族アンケートから健診受診率はおよそ6割程度であり、一方超低出生体重児の家族に対して3割の病院が集団健診受診は勧められていなかった。

上述の療育の流れを図に示した。超低出生体重児においては、出生病院による定期フォローが行われており、療育機関に必要な医療的評価が行われていることが多い。しかし現実にもそうした情報は医療機関と療育機関とで共有されていることは少ない。



## 2.遠隔期における家族の心配

家族アンケートからは、8・9歳では、発達についての心配を31.6%に認め、病気についての心配(20%)しつけ、友達、学力、行動も15%程度に認めた。13・14歳でも、病気、発達と学力の心配を20%に認めた。

困り事があると回答した家族の75%が相談先を有していたことは、そうした家族に対する相応のサポート体制が地域に構築されているといえる。一方、困り事がありながら、相談機関を有さない家族では、その特徴として子どもの年齢が小学校以上で、医学診断上は重大な合併症は有していない例であった。しかし、その困りごとの内容は、発達、しつけ、学力など他の例と同様である。教育分野では特別なニーズを持つ子どもへの支援(特別支援教育)の導入に向けて大きく動いているが、たとえアスペルガー障害などの医学的診断に至らない場合でも入学後にも継続して相談を受けられるシステムの構築が望まれる。

新生児医療に携わる病院は、外来フォローやリハビリ目的でのフォローを丁寧に続けている。しかし、ことばやコミュニケーションなど乳児期を越えて明らかになってくる発達の問題など家族が長期にわたって心配ごととなる点については、家族は保健機関など別のルートを用いて通園施設などの利用を平行している。病院と通園施設等との連携は十分ではなく今後の改善が望まれる。



資料 1. 家族へのアンケート調査結果 (1)

調査対象者	154人
・同意書あり回収	53人
・住所不明にて返送	29人

34%

1 現在のお子様の状況についてお聞きします。

1 - (1) お子様の年齢

3歳	4歳	8歳	9歳	13歳	14歳	総計
20	4	18	1	9	1	53

1 - (2) 性別

a 男 27人

b 女 26人

1 - (3) 住所

尾張地域		三河地域		岐阜県	
市町村名	人数	市町村名	人数	市町村名	人数
名古屋市	7	豊橋市	6	美濃加茂市	1
江南市	3	豊田市	4		
知多市	3	岡崎市	3		
尾西市	2	豊川市	2		
東海市	2	西尾市	1		
一宮市	1	田原市	1		
春日井市	1	西加茂郡藤岡町	2		
尾張旭市	1	幡豆町	1		
岩倉市	1	吉良町	1		
扶桑町	2	小計	21		
西春町	1				
東郷町	1				
甚目寺町	1				
美和町	1				
祖父江町	1				
大治町	1				
弥富町	1				
阿久比町	1				
小計	31				

1 - (4) 就学・就園状況

a小学校・中学校	b特殊学級	c養護学校	d幼稚園	e保育園	f通園施設	g親子教室
25	0	3	2	9	3	2
hその他	その内容	無記入	計			
7	0	2	53			

1 - (5) 現在、通院している病名があればお書きください

あり	なし	未記入	計
18	31	4	53

↓ (内訳)

喘息  
脳室周囲白質軟化症  
斜視  
脳性麻痺・自閉症  
夜尿症・蓄膿症  
第一赤十字病院 形成外科  
アトピー

水頭症・ケイレン発作  
小児慢性特定疾患(内分泌)  
気管支喘息(軽症)  
体の成長を、半年に1回、病院で検診してもらっています。  
脳性麻痺・硝子体出血(6歳のとき、経過観察)・難聴(感音)  
言語障害  
乱視・近視(少し)

2 新生児病棟入院期間の状況についてお聞きします。

2 - (1) 入院期間はどのくらいでしたか

3ヶ月未満	3～6ヶ月	6ヶ月以上	無記入	計
4	42	6	1	53

2 - (2) お子様との1日の面会時間は十分とれたと思いますか

a十分	b不十分	cその他	無記入	計
26	19	7	1	53

平均  
54分

平均  
70分

2 - (3) お子様の状態について、医師から説明がありましたか

あった	なし
53	0

2 - (3) - 1 お子様の状態についての説明は、十分でしたか

a十分	b不十分	cその他	無記入	計
44	4	4	1	53

2 - (3) - 2 不十分とお答えの方のみ、その理由を具体的にお書きください。

・家族が聞いたことしか説明してくれなかったと思う。何を聞いていいかわからなかった事も  
 ・低体重だったため、別の病院に、そしてまた別の病院に、近くにいない事で、出産後の不安が計り知れないものがありました。別の病院に変わり、遠方でもあり、状況を知るまでにか  
 かなりの日々がかかった。

・最初のうちだけの説明で、落ち着き始めたら、毎日の説明もなく、「落ち着いています」と  
 かぐらいで、あとは紙に書かれたメモぐらいでした。

(・無記入 1)

3 新生児病棟等を退院されてからの生活についてお答えください

3 - (1) 地域の集団検診は受けましたか

a受けた	b受けなかった	cその他	計
35	17	1	53

66% (受診率)

3 - (1) - 1 受けなかった理由を差し支えなければお書きください

- ・人目が気になってしかたがなかった。(酸素ボンベを持っていた為)
- ・周りの人に比べられるのがいやだった。
- ・周りの人の目が気になったから
- ・あまりに他の子より遅れていた
- ・1週間おきに病院に健診に行っていたから。
- ・赤十字に全部まかせた。
- ・小さい頃は、集団のところ連れて行くと、病気をひろう為、不安だった。
- ・産まれた病院で、定期的に未熟児健診があった為。
- ・新生児病棟の小児科に通院していたので。
- ・病院で受けていたから・病気の感染を避けたいから。
- ・定期的に、病院での健診(NICU外来)があったから。
- ・NICU外来で健診しているのと同じだったので、3才まで受けなかった。3才健診はうけた。
- ・病院で健診と同じようなことをしたので、3才からは受けた。
- ・豊橋市民病院で定期的に健診を受けていたので。
- ・週に1度、通院していた為。

3 - (2) お子様の発達検査を病院で受けましたか

a 受けた	b 受けていない	無記入	計
48	5	0	53

3 - (2) - 1 受けた方は、受けた時期に該当するものすべてに をつけてください

6ヶ月	1歳	1歳半	2歳	3歳	その他	無記入
25	27	30	27	30	11	3

3 - (2) - 2 その結果についての説明を受けましたか

受けた	不明	無記入	計
44	2	2	48

3 - (2) - 3 病院のどの職種から説明を受けました (複数回答あり)

a 医師	b 看護師	c 理学療法士	d 作業療法士	e 心理士	f その他	無記入
45	4	4	1	5	1	2

4 1歳半健診後の親子教室や通園施設、病院等で行われているリハビリテーションの利用についてお尋ねします

4 - (1) そうした教室や施設、病院等のリハビリを利用されましたか

利用した	利用していない	計
27	26	53

51%

4 - (1) - 1 利用しなかった理由 (複数回答あり)

a 勧められていない	b 参加したくなかった	c 1度参加してやめた	d 不便だった	e その他
21	0	0	0	6

必要がなかった 2  
この地域にはないので  
遠い為  
子どもを信じてたから。  
上の子が3人いて、預けられなかったから。

5 次の(1)から(3)の病院や施設、機関について、これまでにご利用になられたものの番号を で囲み、その中の問いにお答えください

5 - (1) 病院等のリハビリテーションを利用した(単発的な相談は含みません)

22人 81%

5 - (1) -イ どのような内容のリハビリテーションを受けましたか(すべて選択してください)

a 理学療法	b 作業療法	c 言語療法	d 心理療法	その他1	その他2
15	11	9	4	4	1
68%	50%	41%	18%		

理学療法 3  
マッサージ  
(無記入 1)

言語療法 1

5 - (1) - ロ 利用するきっかけは何でしたか

a 健診で保健師	b 家族が希望	c 自分で探した	d その他
7	1	0	13

↓

医師12 { 病院で勧められた  
医師とリハビリ科の医師。全く異常はなかった。多少の動きが遅いところがあった。  
aについては、出産した時から同病院で。bについては、aの先生に紹介された。  
病院の医師からの指示により  
病院で決まっていた  
健診で医師の指示  
日赤の内科の先生より紹介  
病院の医師より紹介  
日赤の未熟児検診の時に、心理の先生に紹介してもらった。  
病院で聞いて、児童相談所に相談に行きました。  
医師より紹介。

保育士1 { 病院で担当医師より  
保育士の方から指摘されたので。 言語療法

5 - (2) 1歳半健診後の親子教室、児童館などの子育てサークルその他の施設を利用した

12人 55%

5 - (2) - イ 利用するきっかけは何でしたか

a 健診で保健師	b 家族が希望	c 自分で探した	d その他
7	1	4	2

↓

田原町保健所職員の訪問時相談より紹介。  
知人より紹介してもらった。

5 - (3) 通園施設を利用した

7 → 32% すぎの子教室の母子通園(2)  
わかさ園の母子通園  
豊田市子供発達センター たんぼぼ 母子通園  
山北保育園内 なかよし教室 母子通園 週1回のみ  
(無記入 2)

5 - (3) - イ 利用するきっかけは何でしたか

a 健診で保健師	b 病院より紹介	c 自分で探した	d 知人の紹介	e その他
6	1	0	0	2

↓

児童相談所  
ひよこ教室 相談員さんや先生より

5 - (4) 上の(1)から(3)でお子様が受けられた療育等(リハビリテーション及び保育等)の内容は、満足できるものでしたか

a 満足だった	b 不満だった	c どちらともいえない
12	2	11

↑

- ・ 保育園では、体が小さい・言葉が少し遅れているというので、一つ下の歳のクラスに入れられた。
- ・ もう少し近いところにあるといいと思いました。

6 現在のお子様の生活状況についてお答えください

6 - (1) 健康または発達または生活上で、困っていることはありますか

ある	ない
28	25

53%

6 - (1) - 1 困っていることがある方は、該当するものにすべてをつけてください

a病気のこ	b発達のこと	cしつけのこ	d友達関係	e学力	f行動	g その他
13	16	8	5	5	8	6

- ・1歳ごろから持っている『ぬいぐるみ』がどこに行くときも手放せない。
- ・自分の世界に入ってしまうと、それを妨げられるとパニックになる。
- ・食が細い。
- ・人の目を見て挨拶をしない。話さない。困ってはいないが、気になる。
- ・生活に関するすべて。現在はまだ小さいので、何とかなっていますが、このまま大人になると思うと、まだこれから困ることはたくさん出てくると思います。
- ・専門的なことがわからない私たちは、今後、この子の為に何をすべきか、日にちだけが過ぎていき、焦りを感じている。

6 - (2) お子様の健康や発達について相談する機関等(人も含む)をお持ちですか。

ある	なし
37	16

6 - (2) - 1 あると答えた方はどこに相談しますか(複数回答)

病院	14
保健センター(保健師)	5
知人・友人など	5
リハビリを受けている施設	4
親族	3
保育園・養護学校	2
(空白)	4

6 - (2) - 2 主な相談相手はどなたですか (複数回答可)

a 医師	b 看護師	c 保健師	d 理学療法士・作業療法士	e 心理士	f 知人・友人	g 親の会など
30	7	11	9	0	22	2
h その他	無記入					
2	12					

親・妹  
保育園の先生

6 - (2) 3 ないと答えた方は、どんなところに相談場所があれば利用しやすいですか (複数回答可)

a 保健センター	b 病院	c 学校(保育園を含む)	d その他	無記入
7	8	12	1	34

(3) その他、お子さんの日頃の生活について感じることをあればお書きください

- ・今のところ、喘息以外では、これといった問題はなく、順調に育っていると思います。
- ・とにかく、小さく生まれても、今現在とても元気で障害もありませんので、夢の子育てをしています。病院の方々にはとても感謝しています。
- ・保育園などの市の公的機関に優先的に入れるといいと思いました。どこに行っても、多くの子供と触れ合わせてくださいと言われるのに、その場がなく、早い時期から毎日でなくていいので、定期的に通園できたら、発達にもいいし体力的にも他の子供に追いつくのにと感じました。
- ・大きなトラブルもなく、これまでこれたことを、全ての方々に感謝しております。
- ・523gで産まれました。何も問題ありません。
- ・子供が大きくなり、私の方が病気になったりすると、ヘルパーさんをお願いしたいが、急な場合は、ヘルパーさんが来てくれません。そういう時こそお願いしたいのです。
- ・何も不満はありません。生きて育つのかと思った子が、今のところ目立った障害もなく、無事にどこか、水泳部で活動し、医学部目指して勉強中です。(実現するかどうかはともかく)過去のたくさんの子供たちの犠牲の上でこの子の健康があります。本人の望み通り、人の役に立てる者になってくれればと願います。
- ・小さかっただけで、どもも病気もなかったのが、普通のことと同じ生活で、友達もたくさんいます。ただ、精神的にちょっと未熟な点が目立ちます。
- ・学校での勉強面で、まだまだ追いつかない点が多く、少し不安もある。他の面では、他のお子さんと変わらないくらい、元気で病気もしないで頑張っていると思う。
- ・人と関わることが、見ていてへたである。その為、自分の中で我慢したりして、つめかみ・指かみがひどくなっているように思います。
- ・毎日、楽しく中学生生活を謳歌しております。
- ・普通に産まれた子と同じように生活しているので、あまり心配していない。
- ・元気に保育園に行き、楽しく毎日を過ごしています。でも、抱える不安はあります。常に何か乗り越えるハードルがあり、乗り越えられないことも…。退院はゴールではなくスタートでした。でも、750gの子が良くここまで大きくなったと思います。幸せな人生を送れるよう、親として考えられる手助けをしたいと思っています。
- ・出生が3月29日と遅く、超低出生というハンディーを考えると、同級生とは保育園卒業時まで1年くらいの差がある。その辺のところを教育の場所でも理解してもらいたい。
- ・障害が残ったことで、四六時中付き添わなくてはいけないこと。健常児にはサークルや支援が多いが、障害児には少ないこと。病院が遠いところにあるときなどは、通うのが大変だったり、良いと言われる所にはすべて通ってみたりと、しっかりした情報が少ない。私の場合は、保健師が二度程度来ただけで、あとはぶっつき何もなく、自分で聞いてさがすことが多かった。
- ・元気に普通学級で頑張っているのが、うれしく感じますが、将来のことを考えると、この成長の遅れは何なのかをいち早く調べて、今後何をすべきかを見つけ出したいが、どこに調べてもらえばよいのか困っています。何か良い情報があれば、連絡いただきたいです。
- ・特殊学校に通学しているため、町内の子供との関わりがなく、また一人っ子の為、一人遊びをしており、幼稚な部分が多い。
- ・今は、何もありませんが、産まれてからすぐの健診(4ヶ月健診)は、産まれ月ではなく、予定日(退院日)から4ヶ月とかにして欲しかった。他の子と比べて、やはり小さいし、母子手帳もずれている。

資料 2. 家族へのアンケート調査結果 (2) クロス集計結果

1 年齢別集計

(1) 病名の有無

区分	3歳	4歳	8歳	9歳	13歳	14歳	計	割合
病名あり	10		3		5	1	19	35.8%
病名なし	9	3	14	1	3		30	56.6%
無記入	1	1	1		1		4	7.5%
計	20	4	18	1	9	1	53	100.0%

(2) 集団健診の受診状況

区分	3歳	4歳	8歳	9歳	13歳	14歳	計	割合
受けた	14	2	13		6		35	66.0%
受けなかった	5	2	5	1	3	1	17	32.1%
無記入	1						1	1.9%
計	20	4	18	1	9	1	53	100.0%

(3) 集団健診を受けた人のリハビリ等利用状況

区分	3歳	4歳	8歳	9歳	13歳	14歳	計	割合
利用した	11	1	5		3		20	57.1%
利用なし	3	1	8		3		15	42.9%
計	14	2	13	0	6	0	35	100.0%

(4) 集団健診を受けなかった人のリハビリ等利用状況

区分	3歳	4歳	8歳	9歳	13歳	14歳	計	割合
利用した	4		3				7	41.2%
利用なし	1	2	2	1	3	1	10	58.8%
計	5	2	5	1	3	1	17	100.0%

(5) 集団健診を受けた人の1歳半事後健診利用状況

区分	3歳	4歳	8歳	9歳	13歳	14歳	計	割合
利用した	7		2		1		10	28.6%
利用なし	7	2	11		5		25	71.4%
計	14	2	13	0	6	0	35	100.0%

(6) 集団健診を受けた人の通園施設利用状況

区分	3	4	8	9	13	14	計	割合
利用した	2		1		1		4	11.4%
利用しない	12	2	12		5		31	88.6%
計	14	2	13	0	6	0	35	100.0%

(7) 集団健診を受けなかった人の1歳半事後検診利用状況

区分	3	4	8	9	13	14	計	割合
利用した	1		1				2	11.1%
利用しない	5	2	4	1	3	1	16	88.9%
計	6	2	5	1	3	1	18	100.0%

(8) 集団健診を受けなかった人の通園施設利用状況

区分	3	4	8	9	13	14	計	割合
利用した	2		2				4	22.2%
利用しない	4	2	3	1	3	1	14	77.8%
計	6	2	5	1	3	1	18	100.0%

2 入院期間別集計

(1) 面会時間の満足度

区分	3ヶ月未満	3～6ヶ月	6ヶ月以上	無記入	計
十分	4	17	5		26
不十分		17	1	1	19
その他		7			7
無記入		1			1
計	4	42	6	1	53

(2) 医師の説明の満足度 (回答者全員が医師の説明あり)

区分	3ヶ月未満	3～6ヶ月	6ヶ月以上	無記入	計
十分	4	34	5	1	44
不十分		4			4
その他		3	1		4
無記入		1			1
計	4	42	6	1	53

(3) 集団健診受診率

区分	3ヶ月未満	3～6ヶ月	6ヶ月以上	無記入	計
受けた	3	30	2		35
受けなかった	1	11	4	1	17
その他		1			1
無記入					0
計	4	42	6	1	53

(3) 集団健診受診率

区分	3ヶ月未満	3～6ヶ月	6ヶ月以上	無記入	計
受けた	3	30	2		35
受けなかった	1	11	4	1	17
その他		1			1
無記入					0
計	4	42	6	1	53



#### 4 現在、健康、発達または生活上で困っていることの有無別集計

( 困りごとあり: 28人 困りごとなし: 25人 )

##### (1) 困りごとの内容

a病気のこと	b発達のこと	cしつけのこと	d友達関係	e学力	f行動	g その他
13	16	8	5	5	8	6

- ・ 1歳ごろから持っている『ぬいぐるみ』がどこに行くときも手放せない。
- ・ 自分の世界に入ってしまうと、それを妨げられるとパニックになる。
- ・ 食が細い。
- ・ 人の目を見て挨拶をしない。話さない。困ってはいないが、気になる。
- ・ 生活に関するすべて。現在はまだ小さいので、何とかなっていますが、この専門的なことがわからない私たちは、今後、この子の為に何をすべきか、日

##### 4(2) 年代の中での項目の割合 (複数回答あり)

	病気	発達	しつけ	友達	学力	行動	その他
3・4歳(24人)	6	8	5	2	0	5	3
	25.0%	33.3%	20.8%	8.3%	0.0%	20.8%	12.5%
8・9歳(19人)	5	6	3	3	3	3	2
	26.3%	31.6%	15.8%	15.8%	15.8%	15.8%	10.5%
13・14歳(10人)	2	2	0	0	2	0	1
	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	10.0%
総計(53人)	13	16	8	5	5	8	6
割合	24.5%	30.2%	15.1%	9.4%	9.4%	15.1%	11.3%

#### 4 (4) 現在通院している病名の有無別集計

##### 相談する機関等の有無

区分	病名あり	病名なし	無記入	計
相談機関等あり	15	20	2	37
相談機関等なし	3	11	2	16
計	18	31	4	53

##### (2) 困りごとがある人の退院後の地域の集団検診受診人数 28人

受けた	受けなかった	その他
18	9	1
64%	32%	4%

→ 2才くらいまでは、病院の健診を受けて、3才の時、集団検診を受

- ・ 人目が気になってしかたがなかった。(酸素ボンベを持っていた為)
  - ・ 周りの人に比べられるのがいやだった。
  - ・ 周りの人の目が気になったから
  - ・ 退院した病院で受けていたから
  - ・ 小さい頃は、集団のところ連れて行くと、病気をひろう為、不安だった。
  - ・ 新生児病棟の小児科に通院していたので。
  - ・ 病院で受けていたから・病気の感染を避けたいから。
  - ・ 週に1度、通院していた為。
- (無記入1)

(3) 相談する機関等の有無

区分	困りごとあり	割合	困りごとなし	割合	計
相談機関等あり	21	75.0%	16	64.0%	37
相談機関等なし	7	25.0%	9	36.0%	16
計	28	100.0%	25	100.0%	53

・困りごとがある人で相談機関等がないと回答した人の概要

	病名	DO・IO	年齢	困りごと	内容
A	-	-	13	病気 発達	アトピーがひどい・視力が悪い。(小学校2年からメガネ使用) 運動神経が悪い。
B	喘息 成長ホルモン分泌不全	89	13	病気 学力	成長ホルモンを注射しているが、なかなか伸びない。 (記入なし)
C	なし	106	13	発達  学力	考え方が幼稚。 表現力が極端に劣る。代数・物理・英語・生物等はよく理解する のに、作文・要約・証明問題になると全くできない。保育園の頃か ら、何を教えてもよく理解し覚えているのに、自分で表現するとな ると、その日あったことも的確に言えない。そのギャップは年々ひ どくなってきた気がする。意識してやらせているうちに、いくらかま しな作文は書けるようになったが、まだ小学校低学年並です。
D	喘息	83	8	発達	精神的に未熟で、パニックになるときがある。
E	なし	無記入	9	学力	(記入なし)
F		正常	3	しつけ 友達 その他	厳しくすると、すぐにチック症状がでる。 なかなか仲間に入って遊べない。 食が細い。
G	なし	正常	8	病気 発達 しつけ 友達 学力 行動	病弱で、すぐ風邪をひく。 同級生よりひとまわりも小さい。 普通にしている。 うまくいっている。 小さい時のハンディーで、少しついていけない。 体格的にも、運動能力が少し落ちる。

資料 3 . 療育機関・医療機関への調査結果

アンケート送付対象施設数 330

返信なし 150

返信あり 180 療育なし 97

療育あり 83 療育の内容に関する回答あり 70

病院 29

通園 33

その他 8 センターなど 4

療育事業 3

訪問 1

NICU を経て退院した子供の療育をしたことがありますか。

ある 56 (病院 23 通園 26 その他 7)

なし 27

療育について

対象疾患

	総数	病院	通園	センター	事業	訪問
運動障害	54	24	22	4	3	1
知的障害	50	14	29	4	2	1
広汎性	37	15	17	3	1	1
その他	15	2	11	2		

年齢制限

		病院	通園	センター	療育事業	訪問
制限あり	3歳以下	2	2	0	0	0
	4,5歳まで	0	11	0	2	0
	6歳まで	1	19	0	1	0
	18歳まで	4	0	2	0	0
制限なし		21	1	2	0	1

### 通う頻度

	病院	通園	センター	療育事業	訪問
週に5日以上	1	17	2		
週に3～4日	0	12	1	1	1
週に1～2日	11	3	1	1	
月に2～3日	14	0		1	
月に1日以下	3	0	1		

### 療育活動上の問題

	病院	通園	センター	療育事業	訪問
親の障害受容	8	21	2	1	
スタッフの人数不足	13	9	2	2	1
専門スタッフの不足	18	16	2	2	1
知識の不足	9	9		1	1
なし	1	4			
その他	7	7	2		

\* その他：(病院) 訓練室の設備、病院のスタンスの変更、専門医がない。

(通園) 小児科医が常勤していない、施設のスペース、  
医療スタッフと保育士間の連携。

(その他) レスプレーター装着に対する家族の知識不足。  
産科医療機関・NICU との連携。

### 対処法

- ・ 親の障害受容：面接をする。話し合う。多職種で検討。母子グループを開催。  
受診を勧める。専門家に聞く。
- ・ スタッフの人数不足：回数を制限する。ヘルパー導入。増員要求を出す。  
グループ活動、母親に介助を頼む。対処法なし。
- ・ 専門スタッフの不足：患者数、日数を制限する。他院を紹介。待機してもらう  
増員要求を出す。他機関と連携をとる。専門スタッフにアドバイスを受ける。  
研修会に参加する。
- ・ 知識の不足：研修会、講演会、学会等に参加する。専門家に話を聞く。他機関と連携を  
とる。

家族の要望は何だと思うか

	病院	通園	センター	療育事業	訪問
定期診察	1 2	0	3		
リハビリによる機能改善	2 8	5	4		1
保育による発達援助	4	3 0	2	3	1
育児援助	6	1 7	1	3	1
その他	0	7	1		

\* その他・・・情報提供、生活に変化と楽しみを持つこと、  
定期的な発達相談、親同士のつながりを持つ  
地域支援

紹介を受けるときの連携

	病院	通園	センター	療育事業	訪問
紹介状・報告書	2 1	1 6	4		1
電話・メール	6	1 1	1		1
家族を通して	1 0	2 0	1	2	1
何もしていない	3	2			
その他	4	4	1	1	1

\* その他：(病院)紹介例なし。- 院内のNICUからのみ。  
(通園)保健師より健診結果をもらう。親同士のくちこみ。  
(その他)直接出向く。

紹介元はどこが多いか

	病院	通園	センター	療育事業	訪問
病院 よくある	6	2	4		1
たまにある	1 2	1 3		1	
保健センター よくある	2	2 5	3	1	
たまにある	9	7	1		1
巡回相談 よくある	1	6	1		
たまにある	3	4	3	1	
その他	8	1 0			

\* その他：(病院)家族からの問い合わせ、施設、保育園  
(通園)他の通園施設、家族、

紹介元に対する連携の要望

	病院	通園	センター	療育事業	訪問
より詳しいものが欲しい	14	9		1	1
連携方法を改善して欲しい	5	3			1
現状のままでいい	6	15	4	2	
要望なし	3	2			
その他	0	3			
無記入	4	2			

\* その他:(通園)遅れて療育が始まる。

病院から小児専門機関に紹介して終わってしまうケースが多い。

もっと母子通園に紹介して欲しい。

情報交換の機会を密にして欲しい。

周辺施設との連絡会(勉強会)

	病院	通園	センター	療育事業	訪問
ある	8	26	4	1	1
ない	17	4		2	
分からない	4	1			
無記入		2			

紹介先はどこですか。

	病院	通園	センター	療育事業	訪問
病院	12	16	4		1
通園	5	8			
施設・療育センター	12	11	1	1	
保育園・幼稚園	0	14		1	
養護学校(幼稚部)	1	7			
普通小学校	0	4			
児童相談センター	0	2	1	1	
保健センター	0	1			
その他	1	2			
なし・無記入	9	0		1	

紹介先との連携

	病院	通園	センター	療育事業	訪問
紹介状・報告書	20	19	4	2	1
電話・メール	7	12			1
家族を通して	7	13		1	
何もしていない	1	2			
その他	1	3			1
無記入	3	1			

資料 4. 新生児医療に従事する医療機関調査結果

アンケート回収状況 合計45病院

- ・超低出生体重児を扱っている病院: 13 (以下 とする)
- ・超低出生体重児を扱っていない病院: 15 (以下 とする)
- ・新生児の入院診療を行っていない病院: 9
- ・小児科診療を行っていない病院: 7
- ・新生児の入院診療は行っているがリハは行っておらず、他施設への紹介もしていない病院: 1

回答者職種 医師:36 不明:8 事務:1

1 新生児病棟(室)に関して質問します

(1) 新生児入院用に使用できる病床数 (平均) 不明 3 0

	19.7床
	3.5床

(2) 新生児病棟(室)の入院患者数(年間) 不明 3 0

	3,433人	(内、超未は295人) 超未の割合 3.5%
	1,006人	
+ 4,439人		

・1病院あたりの入院患者数の平均 (年間)

	343人
	67人
+ 205人	

(3) 新生児病棟(室)のリハスタッフ

	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
	7	1	1
	0	0	0

	臨床心理士	その他	関わりなし
	3	0	5
	0	0	15

2 貴院でリハ等に関わるスタッフの人数をお教え下さい 不明 3 5

	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
	9	7	7
	9	5	8

	臨床心理士	その他
	5	6
	5	0

その他:柔道整復師、マッサージ師、視覚障害指導員、視能訓練士、義肢装具士、理療士?



3 新生児病棟でのリハビリ等の関わりについて質問します

(1) リハスタッフ等の関わる低出生体重児の基準

	超低出生体重児全員	低出生体重児全員	医師の指示の下
	2	0	9
	0	0	9

その他	
	1
	1

その他：・極低出生体重児、人工換気中の児の一部  
 ・仮死、脳性麻痺が疑われる児  
 ・低出生体重を理由にはしていない

(2) リハビリテーションを依頼される児の主な診断名(複数回答可)

	脳性麻痺(疑いも含む)	染色体異常	神経・筋疾患
	9	5	9
	10	7	4

	脊髄疾患	骨・関節疾患	呼吸・循環器疾患
	4	5	5
	0	1	2

その他	
	0
	0

(3) 退院後のリハビリテーションのフォローの基準

	超低出生体重児全員	低出生体重児全員	不明	1	3
	1	0			10
	0	0			11

その他	
	1
	0

d: 極低出生体重児全員

(4) 退院後のリハフォローはどのようにされていますか(複数回答可)

	貴院で継続的にフォロー	他施設・機関へ紹介	不明	1	1
	7	10			1
	3	11			0

c: 症例なし

(5) 貴院でフォローを行う基準 (4)で貴院で継続的にフォローと回答

	医療的なケアが必要	自宅近辺に医療施設がない	不明	1	0
	7	3			4
	3	0			1

その他	
	0
	1

d: 当院のリハ科は大変充実している

(6)他施設、他病院、他機関へ紹介をする基準 (4)で他施設・機関へ紹介と回答

不明 2 4

	自宅近辺にあるため	専門的なフォローが必要	家族の希望
	3	9	3
	0	7	0

その他
0
0

4 退院後の超低出生体重児の外来診察フォローについて質問します

(1)何歳まで行われているか

( )歳まで	特に基準はない	していない
8	5	0

超低出生体重児は扱っていない
0

年齢の内訳: 1歳;1 1.5歳;1 5歳;1 6歳;1 9歳;2 12歳;2

(2)終了の目安

子供の状態安定	他施設・機関への移行が決定	家族の希望
11	3	3

その他
2

その他:・歩行、発語... 以下読めない  
・ハイリスク児のフォローアップ研究会のマニュアルに沿って

(3)発達検査は行われているか

行っている	行われていない	低出生体重児は扱っていない
10	3	0

(4)発達検査の結果をどの職種が家族に説明をしているか

不明 1

医師	理学療法士	作業療法士
8	2	1

言語聴覚士	臨床心理士	その他
1	2	0

(5)どの時期にどの評価表を利用しているか 不明 1

評価法	時期		
	1～3歳	3～6歳	6歳～
津守	5	1	
新版k式	5	4	
遠城寺	1		
精神#1	1		
田中ピネー		3	
WISK		2	3
グッドイナフ		2	
人物画		1	2
ペンダ #2		1	
IQ		1	
Wippsy		1	
図形模写			2
K-ABC			1
心理 #3			1
学習 #4			1

#1:精神発達診断法 #2:ペンダーゲシュタルト #3心理教育アセスメントバッテリー

(5)超低出生体重児に対して地域の集団健診をすすめているか

	勧めている	勧めていない	超低出生体重児は扱っていない
	9	4	0

(6)集団健診を勧めている人の職種(複数回答可)

	医師	理学療法士	作業療法士
	8	0	0

	言語聴覚士	臨床心理士	その他
	0	0	0

(7)集団健診を勧めない理由 回答病院3

- ・いろいろなことを健診時言われ、不安になるケースが多いため
- ・特になし
- ・修正月齢でないこと
- ・健診医が小児神経科または新生児科医ではないこと
- ・家族にとって二度手間ではないこと
- ・暦齢3歳以降は定期健診を勧めている

5 低出生体重児等の療育を目的とした他施設・他機関への紹介についてお尋ねします

(1)紹介先機関(複数回答可) 不明 2 2

	病院	通園施設	親子教室
	5	7	2
	6	7	3

	その他
	1
	2

その他:・児童相談所 ・地域療育センター ・対象症例がない

(2) どのような流れで紹介しているか 不明 0 2

病院から直接紹介	保健センター等を介して紹介	その他
11	1	2
10	2	1

その他: ・病院から見相を介して療育施設  
 ・患者が(?)保健センターへ連絡 ・保健センターから直接

(3) 紹介にどの職種の人が関わっているか(複数回答可) 不明 0 2

医師	理学療法士	作業療法士
13	2	1
11	0	0

言語聴覚士	臨床心理士	その他
0	1	0
1	0	1

f:MSW

(4) 紹介をするときの連携方法 不明 0 2

サマリーを出す	電話・メール	その他
8	1	5
6	4	2

その他: ・紹介状:6 ・ケースバイケース:1  
 ・保健センターと協力していて、相談の上通園施設、親子教室等へ行ってもら

(5) 紹介において困ったことの有無 不明 0 4

あった	なかった	わからない
3	9	1
2	6	3

(6) 困った内容を具体的に記述 不明 0 2

名古屋市外の居住者の場合、紹介先がわからない  
 リハビリテーションを当院で行ってほしい要請があった  
 なかなか予約が取れない  
 人員が満杯で受け入れてもらえない  
 紹介先が患者母親の希望に合わない(リハ回数を増やしてほしい)

(7) (6)での解決方法 記述

回答なし  
 出来ない旨お話しした  
 当院にて子供のリハビリできるよう要請しているが、現状では無理との回答もらっている  
 、 病院間の連絡網を整備し、優先的にみてもらうことになった  
 他施設へ紹介した

(8) 他施設へ転院の際、家族に転院先の施設の情報提供をしているか 不明 2 4

概ねしている	していない
7	4
9	2

(9) 転院先の施設のどのような情報を提供しているか 不明 4 7

・転院目的:2+0 ・所在地:3+2 ・施設内容:1+0 ・家族にとっての問題点:1+0  
 ・より専門的であると説明:1+0 ・対象施設が発行しているリーフ、パンフレット:1+0  
 ・医師の名前:1+0 予約方法:1+0 ・電話番号:1+0 ・外来表:1+0 ・医師の専門分野:1+0

## (10)これまでに紹介した経験のある療育施設

不明 1 3

コロニー	7	6
青い鳥療育	6	3
第2青い鳥	3	2
あゆみ学園	1	0
くすのき#1	1	0
高山学園	1	0
豊田こども	4	1
児童福祉	2	0
地域療育	2	1
あいち小児	2	1
そよかぜ	2	1
児相	1	1
母子通園	1	0
保健所	0	1
カトレア	0	1
若草園	0	1
千代ヶ丘	0	1
つくし学園	0	1
タキタデ#2	0	1
半田 #3	0	1
やまもも	0	1
かじた #4	1	0
刈総	0	1

# 1:くすのき学園

# 2:タキタデイプラザ

# 3:半田市立半田病院

# 4:かじたこどもクリニック